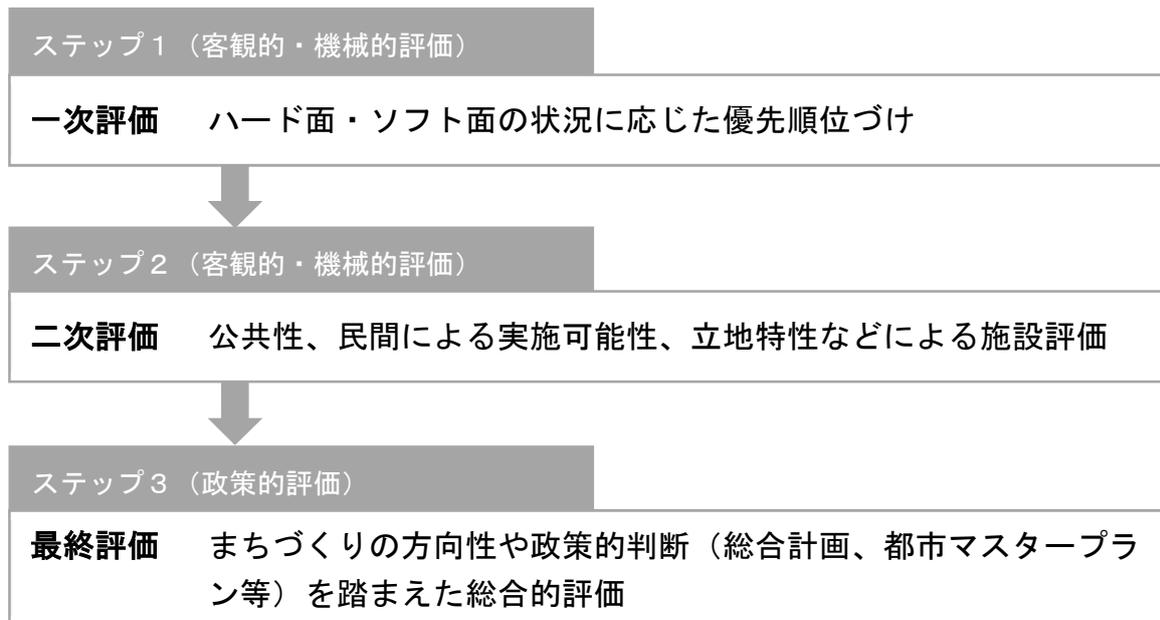


施設再配置に向けた評価の方法

1 評価の進め方

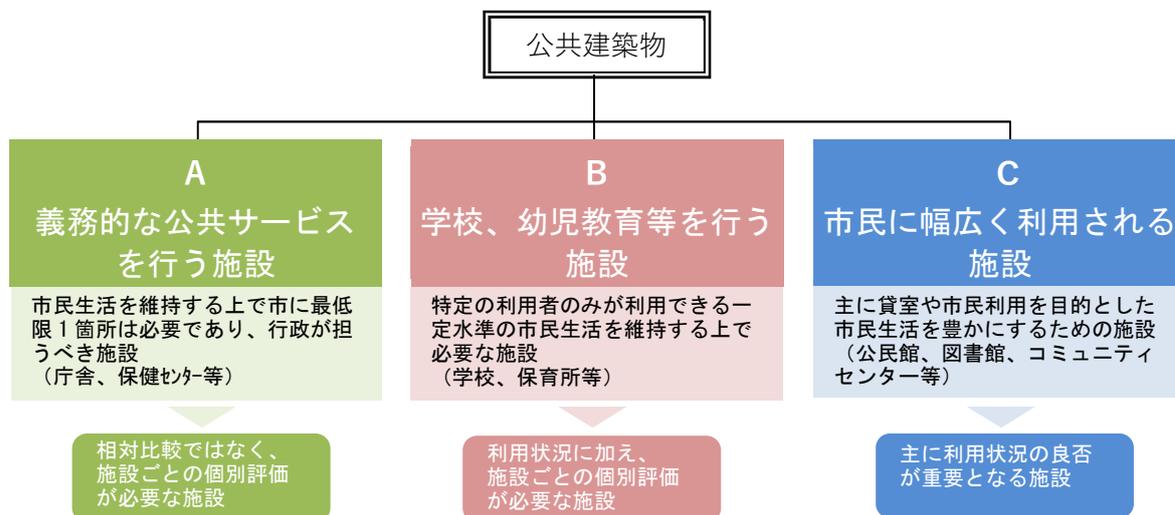
再配置を検討するにあたって、3段階に分けて各施設の評価を行います。



2 一次評価の方法

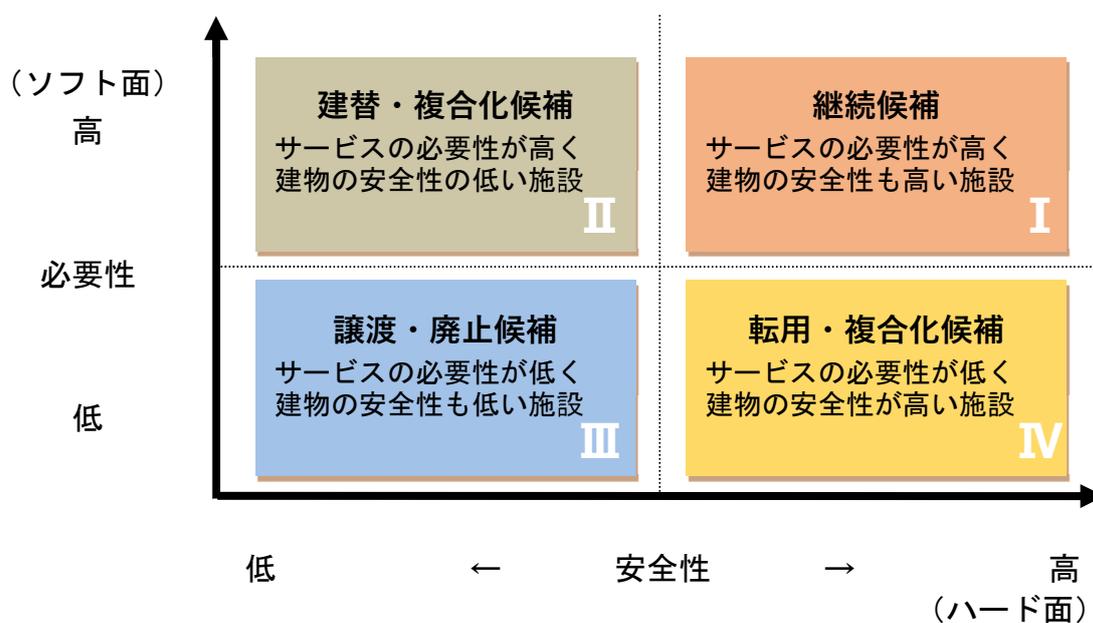
(1) 施設区分

施設の利用特性に応じて、「A 義務的な公共サービスを行う施設」、「B 学校、幼児教育等を行う施設」、「C 市民に幅広く利用される施設」の3つに区分します。



(2) ポートフォリオ分析

ハード(施設の老朽化度)、ソフト(利用状況、コスト状況)の両面を踏まえた評価項目を使って、各施設をポートフォリオ分析し、下図の4つの評価に分類します。



【ポートフォリオ分析のイメージ】

3 二次評価の方法

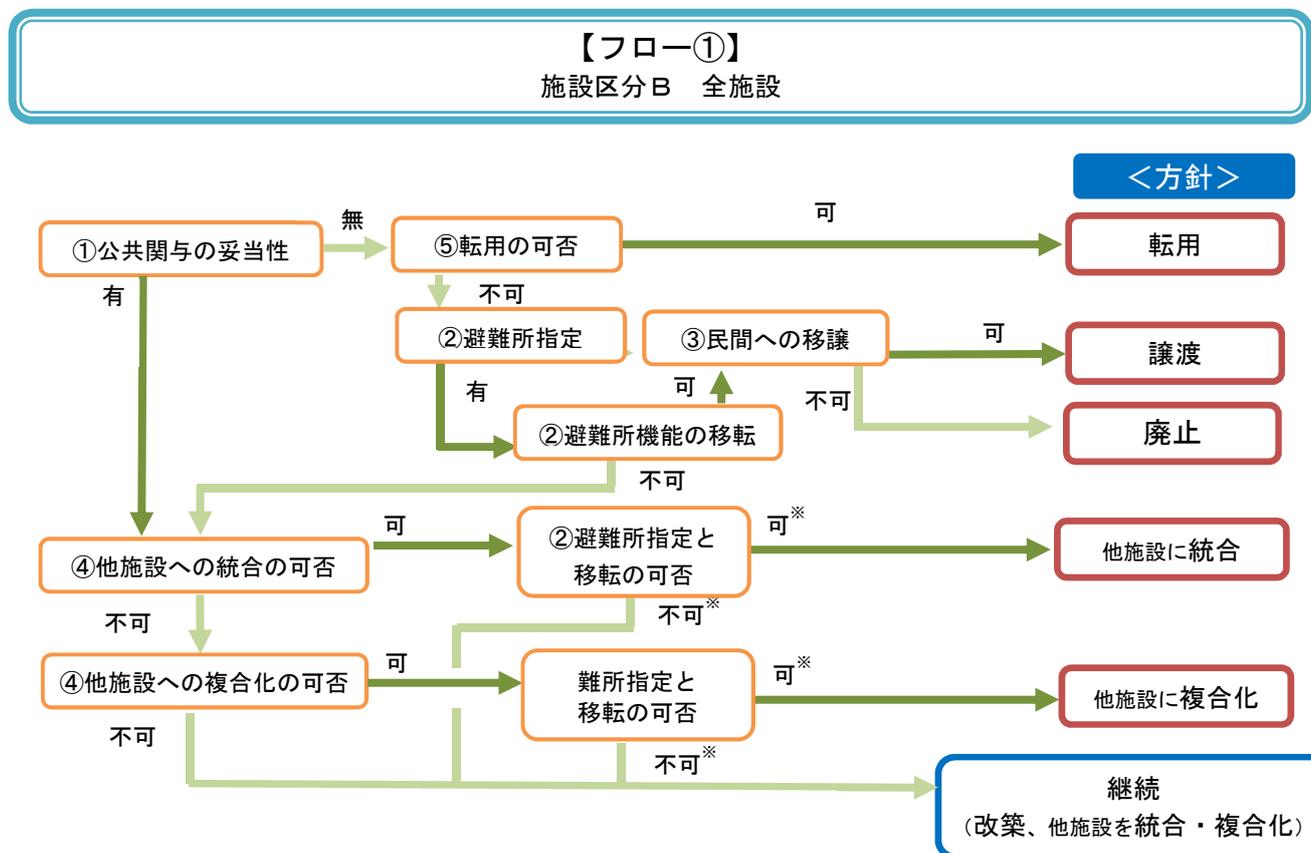
(1) 適用フローの振り分け

一次評価の結果から、施設区分 A・C 及びハード・ソフトともに良好な施設（評価 I）については「継続」を基本とし、その他の施設については、適用フローを振り分けて、詳細な評価を加えます。

表 施設区分と一次評価結果による適用フローの振り分け

1次評価結果 施設区分	I ハード○、ソフト○	II ハード×、ソフト○	III ハード×、ソフト×	IV ハード○、ソフト×
A 義務的な公共サービスを行う施設	(継続)	フロー②	フロー③	フロー④
B 学校、幼児教育等を行う施設	フロー① 二次評価へ			
C 市民に幅広く利用される施設	(継続)	フロー②	フロー③	フロー④

(2) 二次評価フロー

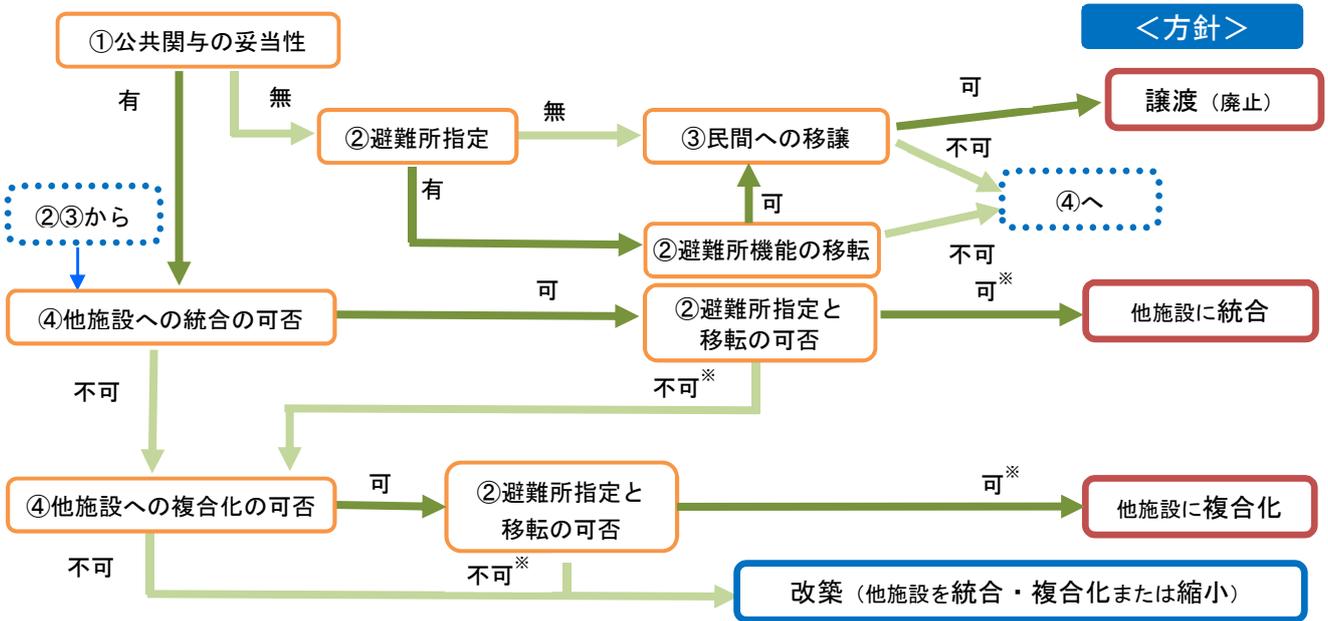


可^{*}は避難所指定無し、または指定はあるが移転可
不可^{*}は避難所指定があり、移転不可

※幼稚園、保育園の場合は、民営化による補助も考慮

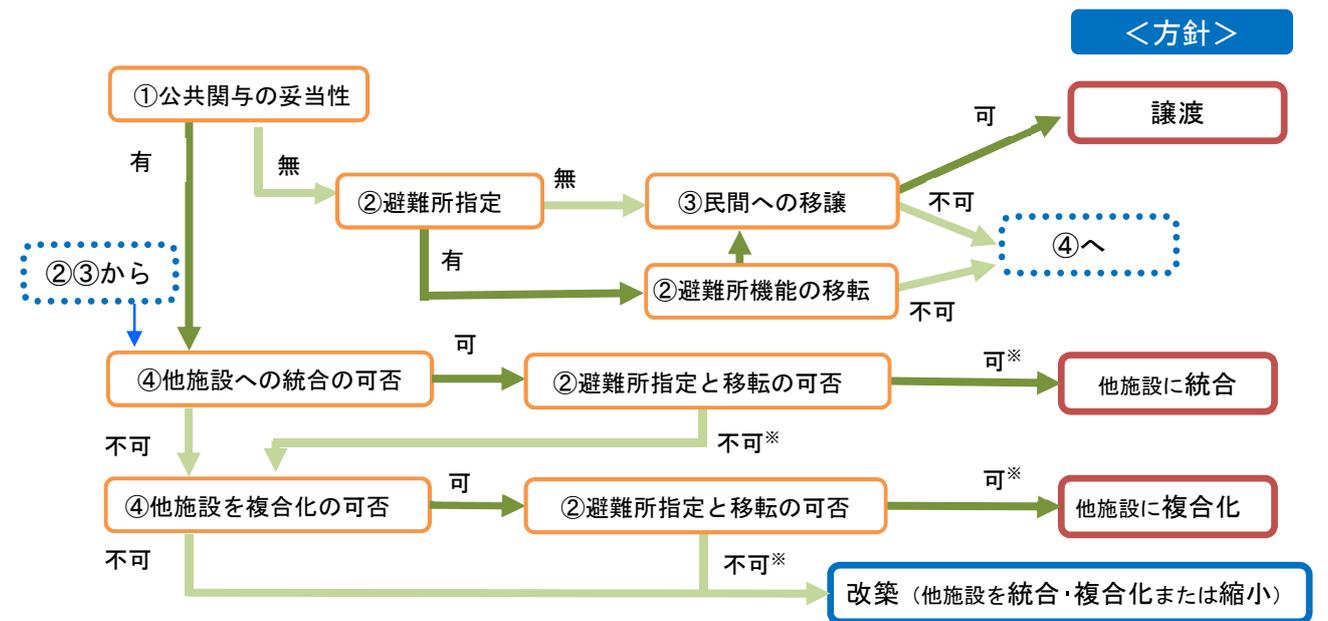
【フロー②】

施設区分A・C 一次評価結果 評価Ⅱ（ハード面：× ソフト面：○）



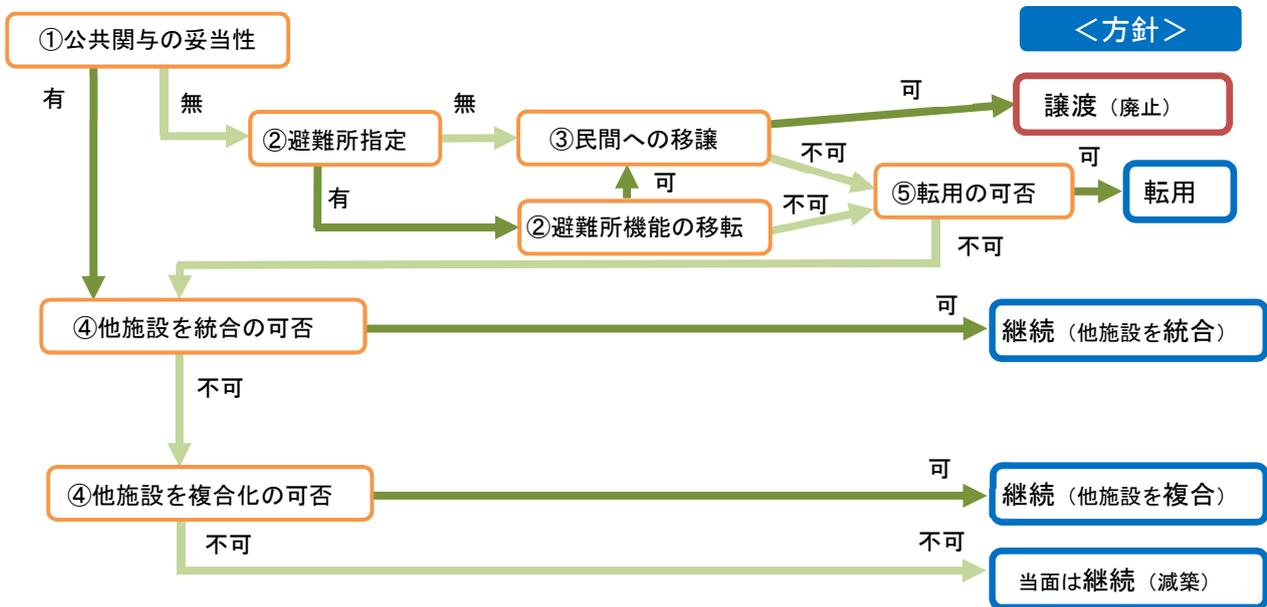
【フロー③】

施設区分A・C 一次評価結果 評価Ⅲ（ハード面：× ソフト面：×）



【フロー④】

施設区分 A・C 一次評価結果 評価Ⅳ（ハード面：○ ソフト面：×）



(3) 二次評価

一次評価で勘案されていない要素（公共関与の妥当性等）について評価します。

表 二次評価項目

分類	評価項目
①公共関与の妥当性	限られた人のための施設ではないか
	公共が提供すべきサービスか
	法令により自治体による設置が義務付けられるものか
	都市機能を誘導すべき区域の施設か
②避難所指定と移転の可否	防災上重要な施設ではないか
	避難所や拠点施設である場合、代替施設はあるか
③施設移譲	施設あるいは施設が行っているサービスを含めて民間に譲渡可能か
	施設の所有権や維持管理を地域に移譲可能か
④統合・複合化の可否	統合や複合化の検討対象となる施設があるか
	鉄道駅・バス停まで近いか
	圏域内の人口が多いか
	自然災害リスクがあるか
⑤転用の可否	統合や複合化するスペースはあるか
	当該施設の利用について、他の用途での需要は見込めるか

4 最終評価の方法

一次評価・二次評価から判定した結果をもとに、まちづくりの方向性や政策的判断（総合計画、都市マスタープラン等）を踏まえ、総合的評価として最終評価を実施します。

最終評価では、施設毎に「再配置検討の方向性」及び「再配置検討の時期」を設定します。

●再配置検討の方向性

「継続」、「統合」、「複合化」、「減築」、「廃止」、「譲渡」

●再配置検討の時期

I期：2019～2028年度

II期：2029～2038年度

III期：2039～2048年度

IV期：2049～2058年度

V期：2059～2068年度

<最終評価イメージ>

施設名称	方向性	第I期	第II期	第III期	第IV期	第V期	考え方
		2019～ 2028	2029～ 2038	2039～ 2048	2049～ 2058	2059～ 2068	
○○庁舎	継続		改修				長寿命化しつつ継続
○○小学校	統合		統合				●●と統合
○センター	譲渡	譲渡					民間譲渡を検討
△センター	複合化			複合化			他施設との複合化を検討